

大館遺跡群

大館町遺跡

平成3年度発掘調査概要



盛岡市教育委員会

例 言

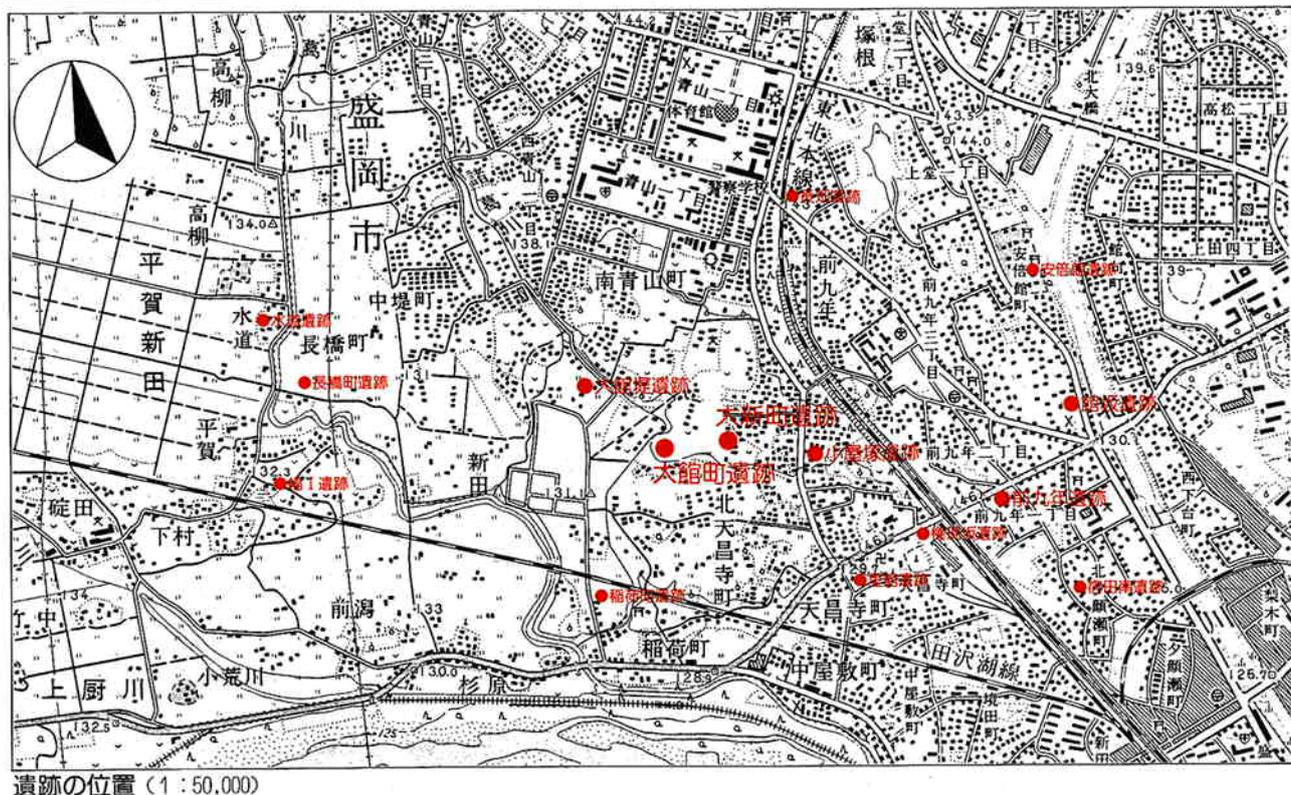
1. 本書は大館町遺跡群・大館町遺跡の平成3年度発掘調査の概要である。
2. 本書は写真を多く掲載した概要書であり、調査の全体を示す事実報告については、別途報告書を作成する予定である。
3. 調査主体者は盛岡市教育委員会で、調査の実施および本書の作成は社会教育課文化係（八木光則・千田和文・似内啓邦・小原俊巳・室野秀文・内山陽子・井上雅孝）がおこなった。
4. 調査の実施にあたって、次の方々からご指導・ご協力をいただいた。記して謝意を表する(敬称略)。
岩手県教育委員会、岩手県立博物館、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、工藤由喜夫、菱和産業(株)
5. 大館遺跡群の遺構記号は次のとおりとした。

遺 構	記号	遺 構	記号
竪穴住居跡	RA	炉 跡	RF
建 物 跡	RB	溝 跡	RG
柱 列 跡	RC	配石・集石	RH
土 壇	RD	井 戸 跡	RI
竪 穴	RE	そ の 他	RZ

目 次

1. これまでの調査…………… 3
2. 平成3年度の調査…………… 6
3. 検出された遺構…………… 8
4. 密集する住居群…………… 9
5. 住居跡と出土遺物……………10
6. 掘立柱建物跡……………11
7. 炉と埋甕……………11
8. 住居のかたち……………12
9. 発掘された縄文時代のムラ……………14
10. 縄文人の信仰……………18

○本遺跡関係文献で盛岡市教育委員会刊行のものは、『大館町遺跡—昭和51年度発掘調査報告』『大館遺跡群（大館町遺跡・大新町遺跡）発掘調査概報』昭和55～平成元年度（10冊）、『大館遺跡群（大館町遺跡）発掘調査概要』平成2年度の計12冊がある。





大館遺跡群航空写真（1：8,000）

1. これまでの調査

大館遺跡群は盛岡市の北西部、雫石川北岸の丘陵性台地（火山灰砂台地）の縁辺部に位置している縄文時代中期を主体とする6遺跡を包括したものです。

台地上には西から大館堤・大館町・大新町・小屋塚・前九年・館坂遺跡が立地し、さらに一段下がった段丘面（上田段丘）にも平安時代から江戸時代までを主体とした稲荷町・里館・権現坂・安倍館・宿田南などの遺跡が存在しています。

これらの遺跡の中でも大館町遺跡は早くから調査がなされ、昭和20年代後半にはすでに学会などに発表され、また組織的な発掘調査も岩手大学によって昭和31年から数回にわたって実施されてきました。その調査結果はいずれも縄文時代中期（約4,000～4,500年前）を中心とした大規模な集落跡の存在を裏付けるもので、おびただしい数の住居跡群や多量の土器・石器をはじめとする遺物が発見されています。

また一方、台地東側に隣接している大新町遺跡からは、県内でも最古の縄文時代草創期（約10,000年前）の爪形土器、早期前葉（約8,000年前）の竪穴住居跡

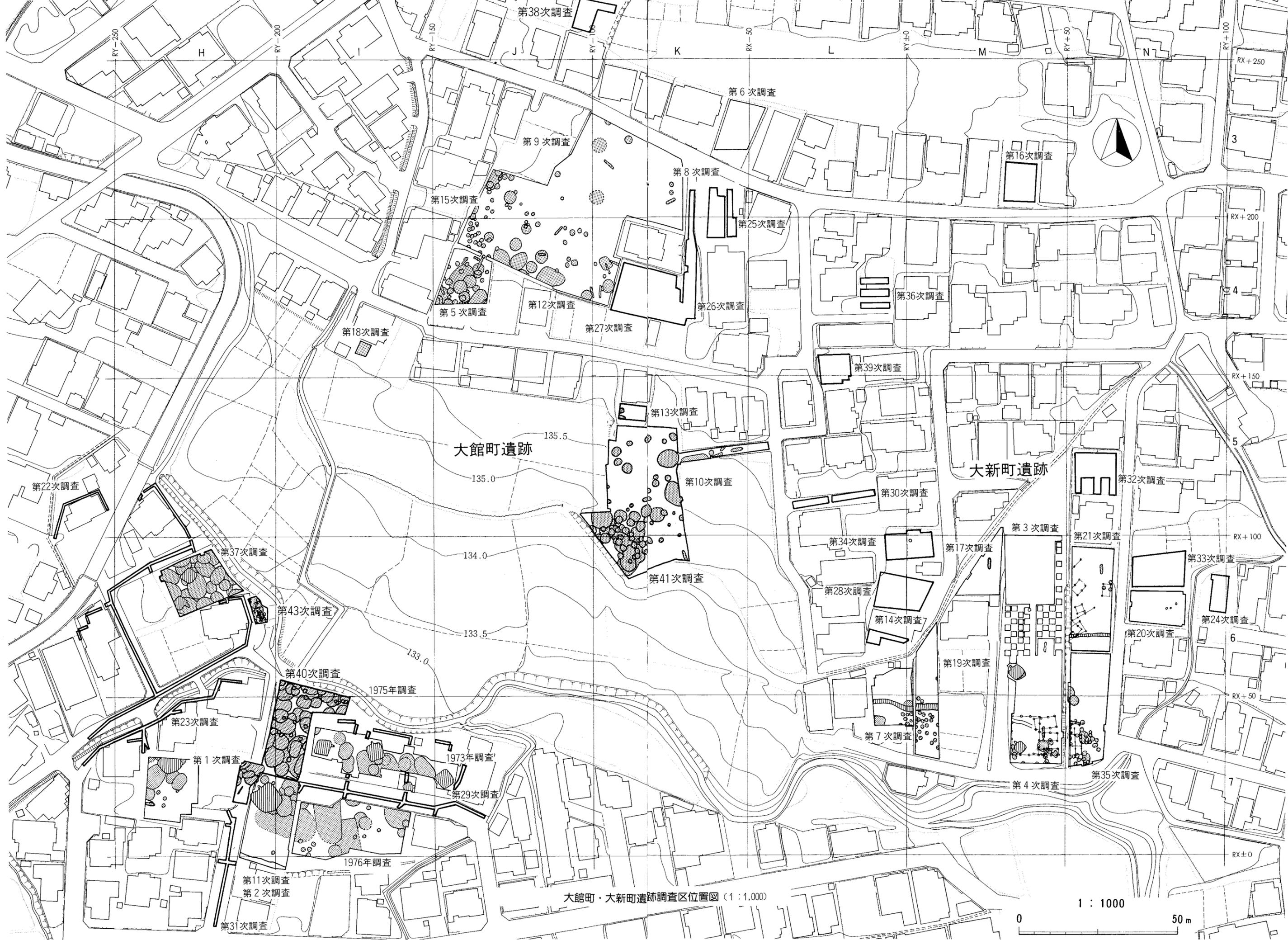
およびそれに伴う押型文土器・沈線文土器が多量に出土したほか、中期の土塚群（食料貯蔵穴）や平安時代末期（11世紀）の竪穴・掘立柱建物跡なども検出されています。

さらに東側に位置する小屋塚遺跡からは縄文中期の住居跡のほか、直径2mを越える大きさの円形の貯蔵穴群（フラスコ形土塚）が多数確認されています。

東北本線の東側に広がる前九年遺跡でも中期の住居跡が点在して検出されたほか、最近の調査では早期中葉（約7,000年前）の貝殻条痕文土器群や奈良時代（約1,300年前）の土塚墓および円形周溝（直径4～8mの円形の溝跡）などが検出されています。

このように大館遺跡群は台地縁辺部に縄文時代を中心として発展した遺跡群で、特に各遺跡に共通して存在する中期においては、やはり大館町遺跡が中核的な位置を占め、台地に広がる当時の集落群の中でも拠点的な性格をもった遺跡であると考えられます。

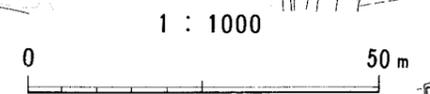
大館町遺跡の平成2年度までの調査成果を総合すると検出された縄文時代の竪穴住居跡は180余棟、竪穴11棟、掘立柱建物跡3棟、土塚110余基などで、ほとんどが中期に所属するものです。



大館町遺跡

大新町遺跡

大館町・大新町遺跡調査区位置図 (1:1,000)





大館町遺跡第40次調査区全景（南西から）

2. 平成3年度の調査

今年度の大館町遺跡においては、5件の個人住宅の新築・増築工事および私道整備工事にともなう緊急発掘調査が実施されました（第40・41・43次調査）。そのうち国庫補助事業として実施されたのは3件で、いずれも対象地が隣接するため、まとめて第40次調査として実施されました。なおこれに係る調査事業経費は1,000万円です。

■大館町遺跡第40次調査

□所在地——盛岡市大館町147-10, 147-16, 147-18, 147-19

□調査期間—1991年4月8日～8月31日

□調査面積—497m²

□検出された遺構・遺物

縄文時代—中期中葉を主体とする竪穴住居跡57棟、
竪穴1棟、掘立柱建物跡2棟、土坑16基
および前期末葉～中期初頭の遺物包含層
が確認されている。

□概要

大館町遺跡は盛岡市の北西部、雫石川北岸の火山灰性台地の南縁辺部に立地しています。今回の調査区は東西220m、南北250mの広がりをもつ本遺跡の南西部に位置しており、東西幅13～23m、南北の長さ30mほどの範囲でおこなわれました。調査前は畑として使用されており、耕作のたびにたくさんの土器片や石器が地表面に表れ、採集することができました。

発掘調査はその耕作土の除去作業から始まり、地表下30cmほどで竪穴住居跡の輪郭を知ることができ、住居跡群は狭い範囲の中に隣接ないし重なり合った状態で多数発見され、長期間にわたって同じ場所に作られていたことがわかりました。

またこれらの住居跡の多くは台地上に堆積した褐色の粘土質火山灰土を掘り込んで築かれていますが、調査区の南西部からは台地が徐々に下りはじめ、その低地の堆積土中からは検出された住居跡群より古い時期の遺物を包蔵する黒褐色の厚い遺物包含層が確認されました。



住居跡の精査



実測作業

3. 検出された遺構

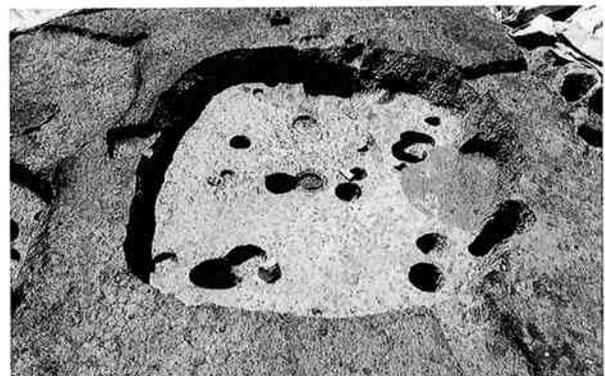
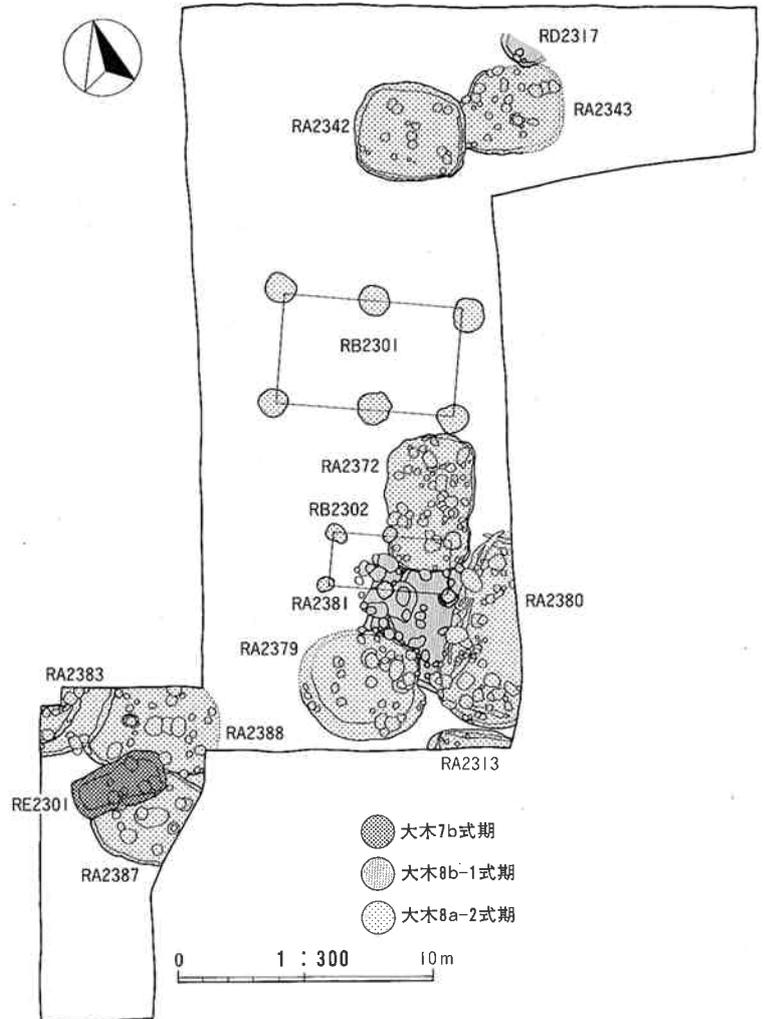
今回の調査では57棟の竪穴住居跡が検出されましたが、そのうち住居の形がよくわかるものは半数ぐらいで、あとは耕作によって削られてしまったり、当時住居どうしが重なり合って造られた時、新しい家に古いものは壊されてしまうため、壁や床面の一部だけが残って確認されたようなものもあります。

発掘された竪穴住居跡は形や大きさなどで分類すると次のようになります。

- ①ほぼ円形で、直径4～6mぐらいのもの
- ②ほぼ円形で、直径3m以内の小形のもの
- ③楕円形で、長軸4～6mぐらいのもの
- ④楕円形で、長軸7m以上の大形のもの
- ⑤隅丸方形で一辺4mをはかり、掘り込みの深いもの
- ⑥隅丸方形で、長軸5～7.5mぐらいのもの

出土した土器から住居跡は中期中葉の^{だいぎ}大木8a～8b式期のものが主体となっており、古い段階の大木8a式のものでは長方形～隅丸長方形を基調としたRA2313・2372・2380などがあります。次の段階の大木8b式になるにつれて数は増大し、形も長方形から円形～楕円形へと変化し、大きさでは通常規模のRA2362・2368、大形のRA2371、小形のRA2364などいろいろな形態の住居が出現してきます。

■盛岡周辺で検出される縄文時代中期の竪穴住居跡は、出土する土器を分類することにより、大木7式から大木10式の4段階に大別され、さらに7式は2段階(7a・7b)、8式は5段階(8a-1・8a-2・8b-1・8b-2・8b-3)、9式は2段階(9a・9b)、10式は2段階(10a・10b)に細分されています。



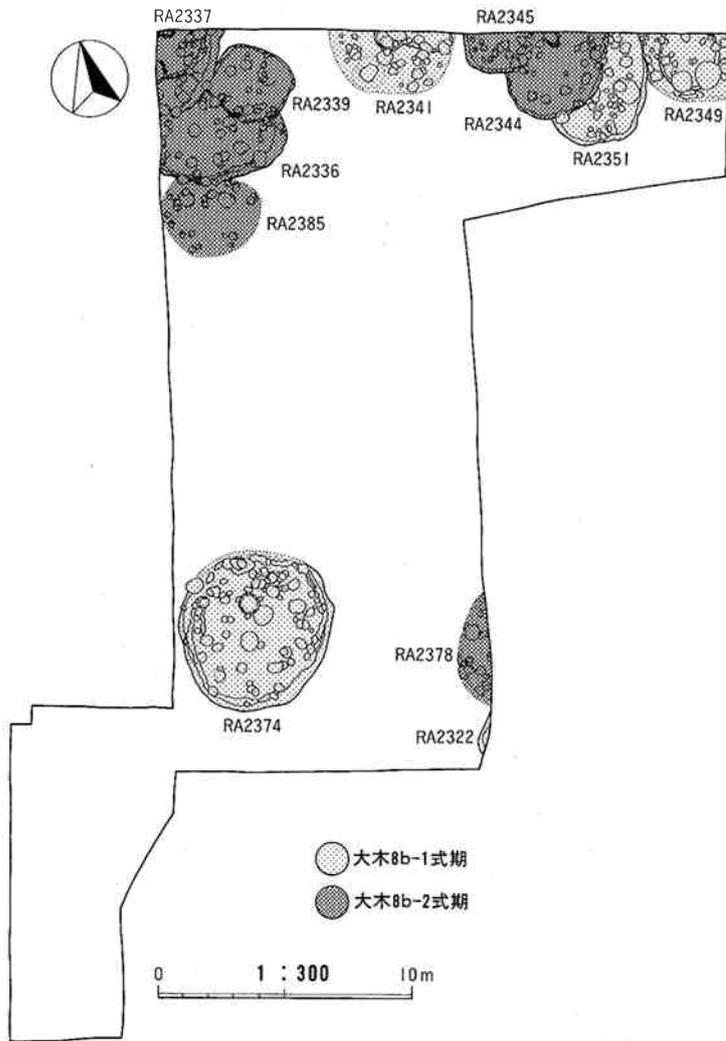
隅丸方形の住居 (RA2342・大木8a-2式期)



中央に埋葬炉をもつ住居 (RA2379・大木8a-2式期)



長方形の住居 (RA2372・大木8a-2式期)



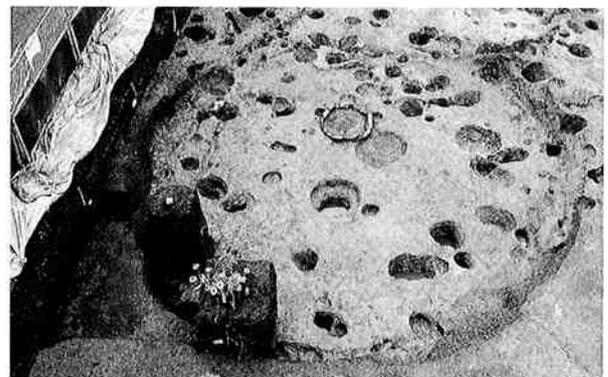
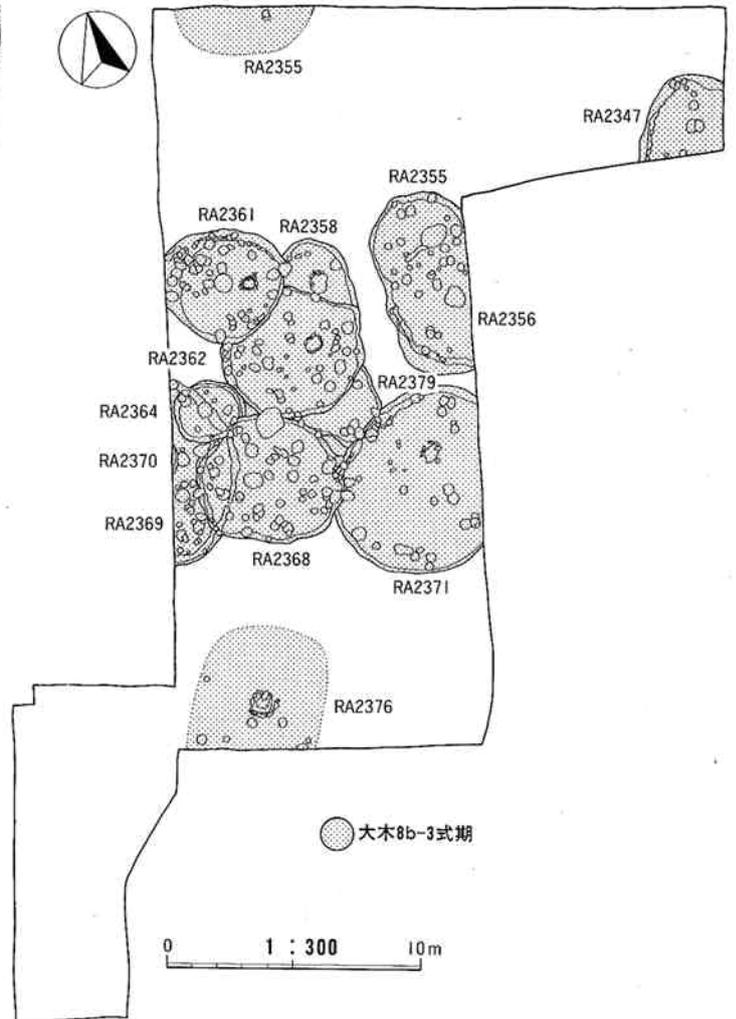
時期別配置図

4. 密集する住居群

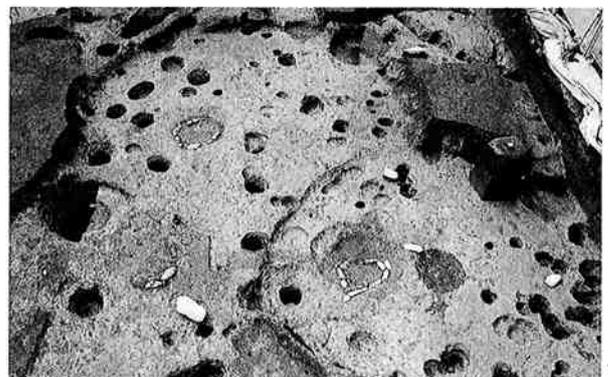
上図は検出された遺構で所属時期が判明した40棟余りのものについて時期別に整理区分したものです。

左図は今回の調査で最も古い段階の大木7b式から8a-2式期に属する遺構の配置を示したものです。中央の掘立柱建物跡を境に南北に分布しますが、特に台地縁辺部にあたる南半部に隅丸長方形・円形～楕円形の住居跡が多く見られます。なお7b式に属するRE2301のように炉がなく、柱穴数も少ないものについては、通常の住居跡とは区別して「^{たてあな}竪穴」と呼んでいます。

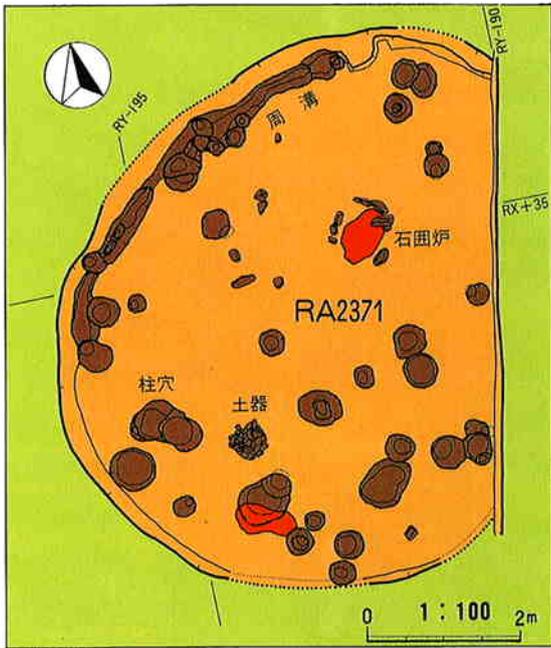
中図の大木8b-1・2式期の段階では、はっきりと南北に分かれて配置している様子がわかり、また最も棟数が多いのは、右図の大木8b-3式期の段階です。調査区中央部に密集する状態で検出され、中でもRA2362・2368の例では、形・規模および^ろ炉・^{うめがめ}埋甕の位置までそっくり同じような2棟の住居跡が検出されています。



建替えのある住居 (RA2374・大木8b-1式期)



東寄りに炉をもつ住居 (左上 RA2362 右下 RA2361・大木8b-3式期)



RA2371 竪穴住居跡 (大木8b-3式期)



RA2371 竪穴住居跡 (北西から)



遺物出土状況

5. 住居跡と出土遺物

RA2371は調査区中央からやや南東寄りで見出された住居跡です。形は楕円形で、長軸7.65m、短軸6.4m以上をはかり、今回の調査で最も大きい住居跡となります。住居の中軸線は北東-南西方面で、そのうち南東側が入口と考えられ、石田炉はやや北東に位置しています。床面からは大小多数の柱穴が確認されましたが、屋根を支える柱は8本で八角形に配置され、中軸線上にも棟持柱となる柱穴が検出されています。

またこの住居跡の床面積は約39㎡(12坪)となり、床面や埋土からは大量の遺物が検出されています。土器では高さが30cm以下の同一規格品に近い中〜小形の深鉢が多く、完形品で出土したのものもあります。

そのほか石器では、狩猟時に使用した石鏃(ヤジリ)をはじめ、石錐(キリ)や削器(ナイフ)、木を切り倒したり、加工に使用された石斧、採集した木の実などを割ったり、すり潰したりするための石皿・磨石などが出土しています。



出土土器



出土石器

6. 掘立柱建物跡

調査区中央部および南半部で2棟の掘立柱建物跡が検出されています。北側のRB2301は直径1.0~1.3m、深さ0.7~1.2mほどの大形柱穴6個で構成されており、これらをつなぐと東西方向(W18°N)の長方形の建物跡になります。規模は東西2間(桁行7.3m)、南北1間(梁間4.2m)をはかり、断面観察で柱痕跡の太さをはかると40~50cmほどにもなり、かなり太い柱が立てられていたことがわかります。南側のRB2302はやや小規模なもので、東西2間(W20°N・桁行4.7m)、南北1間(梁間2.3m)をはかるものです。これらの掘立柱建物跡は地面を掘りくぼめた竪穴住居とは違い、平地に柱穴だけが掘られたものですが、上屋構造(屋根や床など)についてはまだよくわかっていません。

東日本では縄文時代前期頃から出現し始め、性格については、計画的な配置で検出された紫波町西田遺跡(縄文中期)や鹿角市大湯のストーンサークル(縄文後期)などの例では、葬送儀礼にかかわる施設として考えられています。



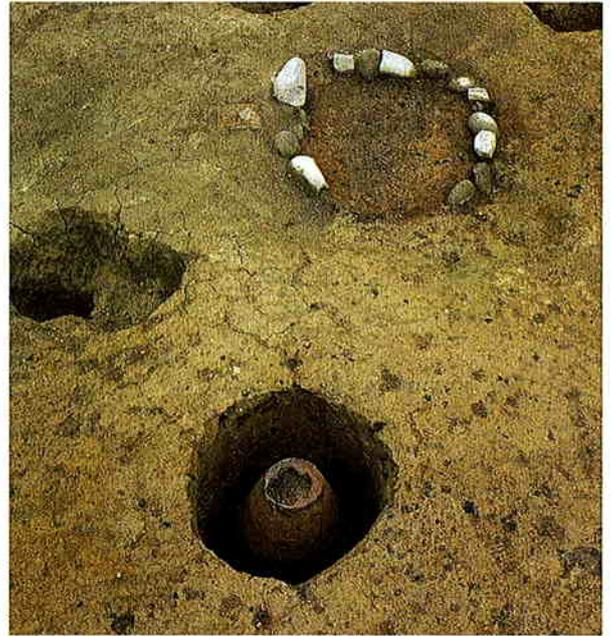
掘り方断面 (RB2301-No.5)



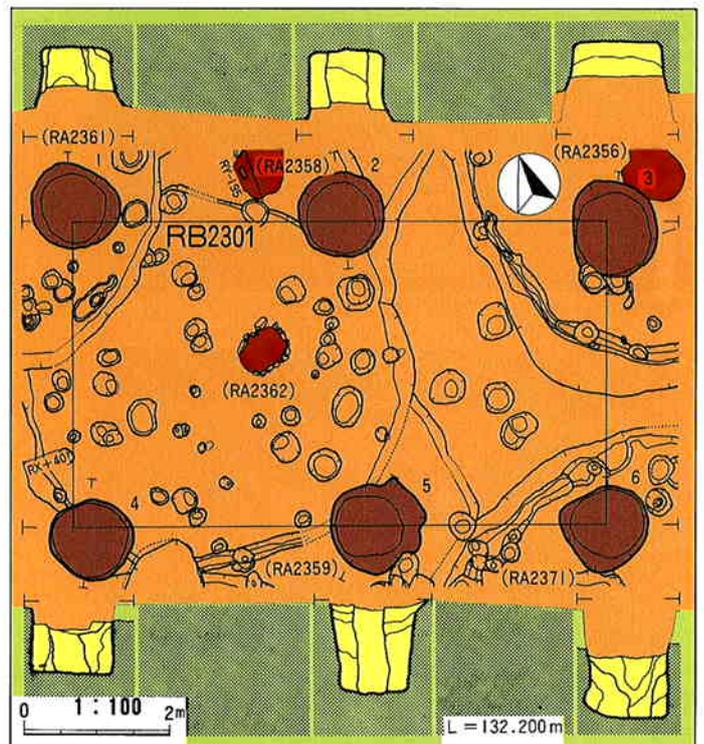
柱穴の位置 (RB2301)

7. 炉と埋甕

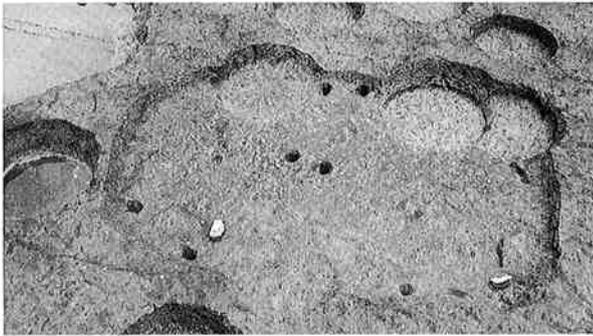
住居跡内の施設としては、RA2362・2368で埋甕が発見されています。両者とも中軸線上の石囲炉の西側(入口側)の床面に倒立(さかさま)状態で、底部穿孔ないし体部下半を欠いたものが埋納されたもので、これらについては乳幼児の遺骸を埋納した甕棺ないし胎盤を埋納した施設と考えられています。



石囲炉と埋甕 (RA2362)



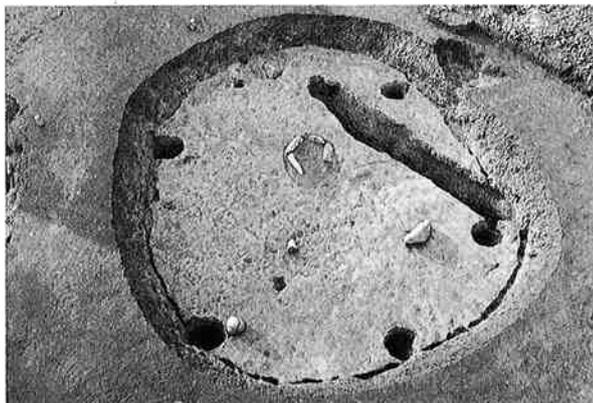
RB2301掘立柱建物跡 (1:100)



早期の住居（大新町遺跡 RA6507・押型文期）



長方形の住居（大館町遺跡 RA2313・大木8a-2式期）



楕円形の住居（大館町遺跡 RA2629・大木8b式期）



壁柱穴をもつ住居（大館町遺跡 RA2624・大木8b式期）

8. 住居のかたち

縄文時代の竪穴住居は、当時の自然環境や社会の変化に対応して、時代ごとに移り変わってきました。

本遺跡に隣接する大新町遺跡からは縄文時代早期前葉（約8,000年前）の押型文期の住居跡が3棟確認されています。これらの住居は隅丸長方形～方形を呈しますが、しっかりとした支柱穴は認められず、壁際から斜めに並べた材で屋根を架けていたようです。また、はっきりとした炉もまだ存在していません。

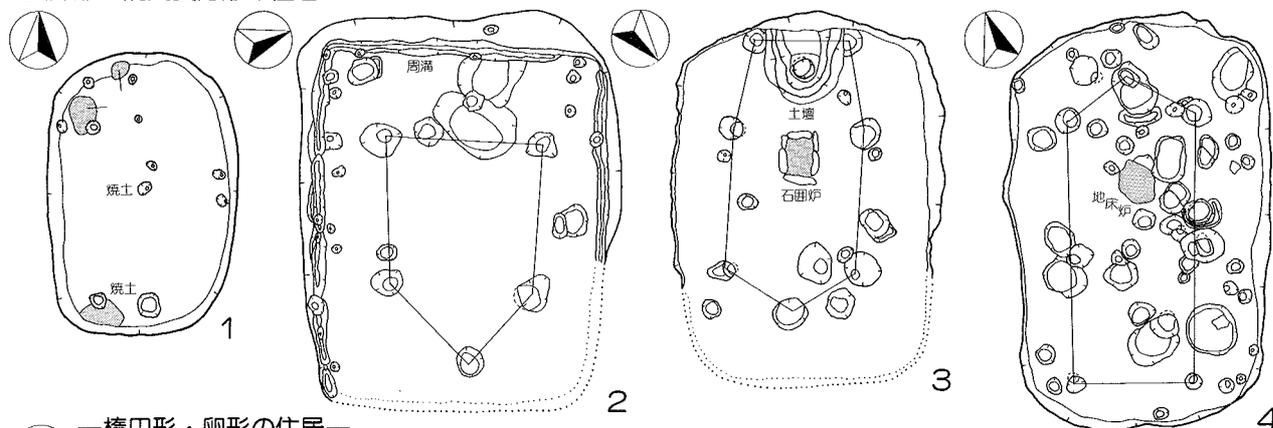
前期（約6,000年前）に入ると、しっかりとした柱穴をもち、中央には地床炉・石囲炉^{ぢしょうろ いしがこいろ}などがつくられるようになります。形は長方形が多くなり、前期末頃からは長軸が10mを超えるロングハウスと呼ばれる共同作業場的な性格をもった大形住居も出現します。

本遺跡で確認される住居跡の多くは中期に属するものですが、大木7式期は少なく、前段階の形を踏襲した長方形ないし隅丸長方形の大木8a式期、そして8割以上が大木8b式期に相当するものです。この頃になると形・規模ともに種類が多くなり、柱穴配置も直径4～6mの円形のもので方形配置の4本柱、長軸7mを超える楕円形～卵形のものなどでは長軸線上の棟持柱を含めると五角形配置の5～7本柱、楕円ないし亀甲（六角形）配置の6～8本柱のものなどもみられます。また特異なものとしては、通常の住居より掘り込みが深く、炉を持たない「竪穴」に近い形で、壁面に斜位の支柱穴を配置した住居跡も検出されています。

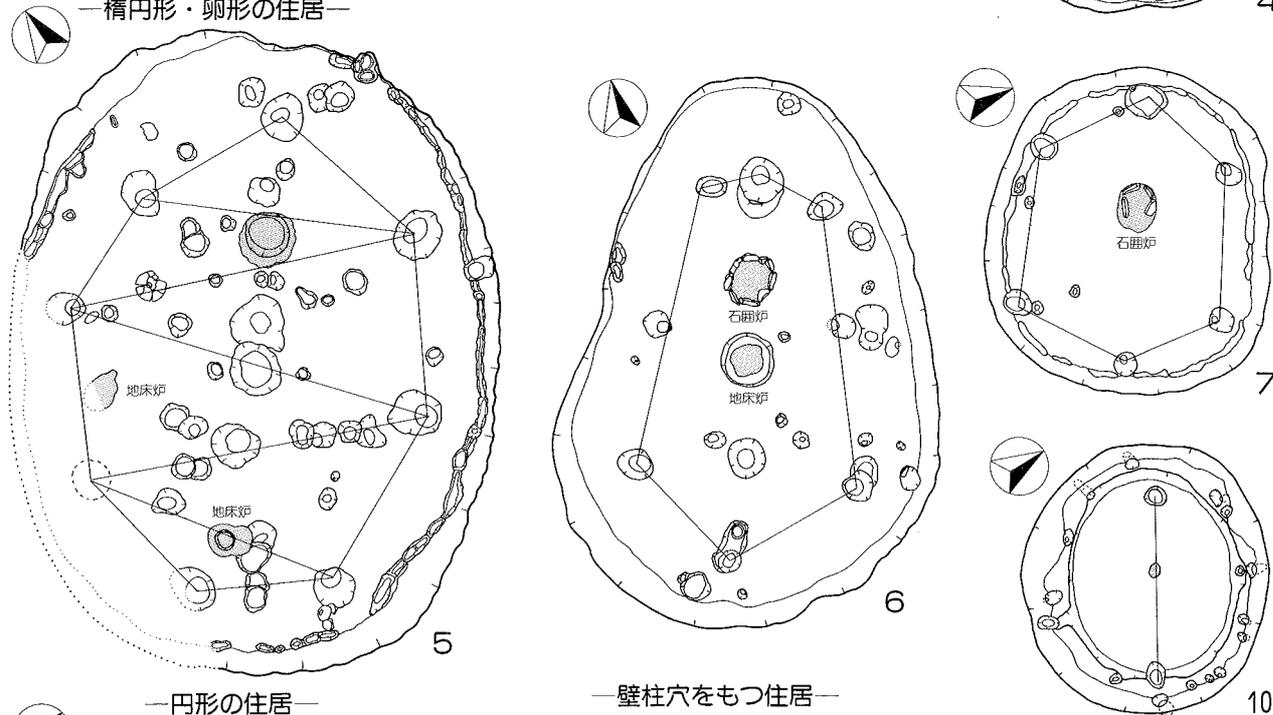


卵形の住居（大館町遺跡 RA2301・大木8b-1式期）

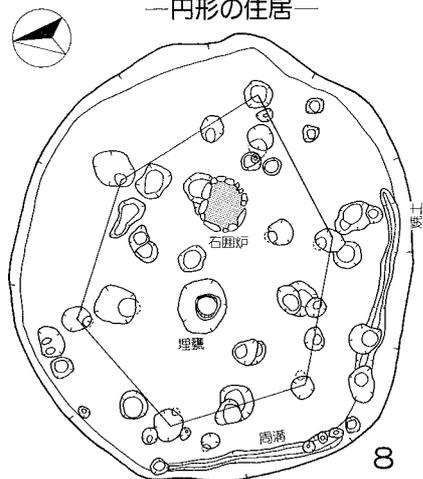
—長方形・隅丸長方形の住居—



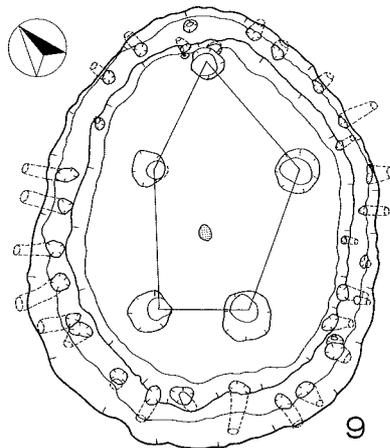
—楕円形・卵形の住居—



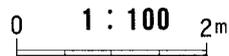
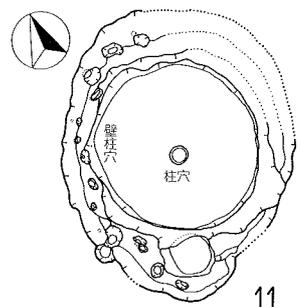
—円形の住居—



—壁柱穴をもつ住居—



—竪穴—



いろいろな住居 (大館町遺跡・大新町遺跡)

1. RA6507	3.7m×2.5m	壁柱穴	(早期・押型文期)
2. RA2313	4.7m以上×3.9m	五角形5本柱?	(大木8a-2式期?)
3. RA2314	5.0m以上×3.5m	七角形7本柱?	(大木8a-2式期?)
4. RA2372	5.5m×3.5m	五角形7本柱	(大木8a-2式期)
5. RA2102	8.5m×6.5m以上	八角形交互8本柱	(大木8b-2式期)
6. RA2301	7.2m×5.2m	六角形8本柱	(大木8b-2式期)
7. RA2629	4.3m×3.7m	亀甲6本柱	(大木8b式期)
8. RA2368	5.9m×5.2m	亀甲6本柱	(大木8b-3式期)
9. RA2624	5.8m×4.5m	五角形5本柱	(大木8b式期)
10. RE2610	3.5m×3.2m	中軸線上2本柱	(大木8b式期?)
11. RE2601	6.5m×2.6m	中央1本柱	(大木8b式期?)

9. 発掘された縄文時代のムラ

土器の登場によって食生活が拡大し、気候も暖かくなると、人々は生活に適した小高い台地にムラをつくりはじめます。ムラには数百年から長いものでは千年近くも存続していたと思われるものもあります。これらのムラには中央に広場的な空間や墓域をもち、その回りを住居域が取り囲む環状・馬蹄形集落と呼ばれる形態を構成するものがありますが、これは土地利用上でなんらかのムラのおきて＝共同体規制があった結果生まれたものと考えられます。

東北地方で縄文時代中期の大規模な集落の様子がよくわかる遺跡には、岩手県紫波町の西田遺跡、一戸町の御所野遺跡、山形県村山市の西海淵遺跡などが挙げられます。西田遺跡は東北新幹線工事のために調査された遺跡で、発掘の結果、中心部から外に放射状に並んで向かった墓塚群(土塚墓)、掘立柱建物跡、住居跡群・土塚群(貯蔵施設)が、四重の同心円を描く形で発見されました。発掘調査した範囲が細長く、住居域

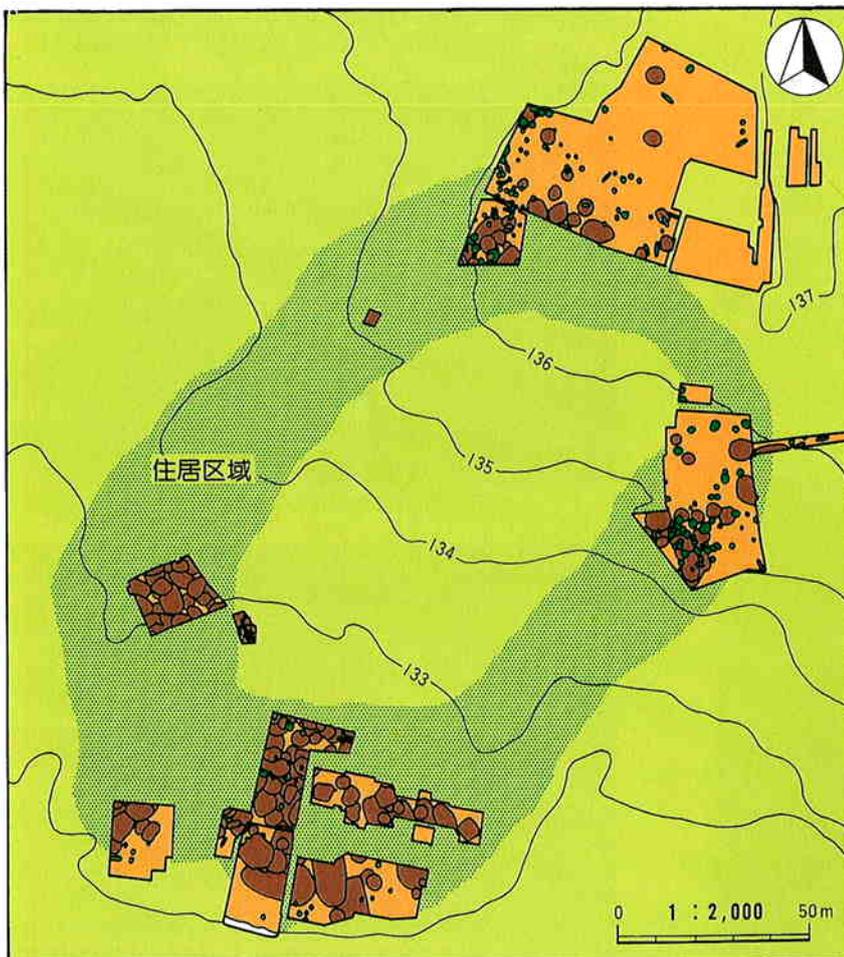


大館町遺跡全景(西から)

の全貌はわかりませんが、内側の掘立柱建物跡の外径は約60m、墓塚群の外径は40mぐらいになります。

御所野遺跡は馬淵川の東側に長く突き出した段丘面に位置する東西500m、南北120mの大きさの遺跡です。

現在も範囲確認調査が継続中で、奈良時代の古墳群のほか、縄文時代中期後半の竪穴住居跡が東西方向に弧状に約500mの範囲で確認され、さらにその西側の中央広場と考えられる平坦面からは石を組み合わせた墓域になると考えられる配石遺構が検出されています。



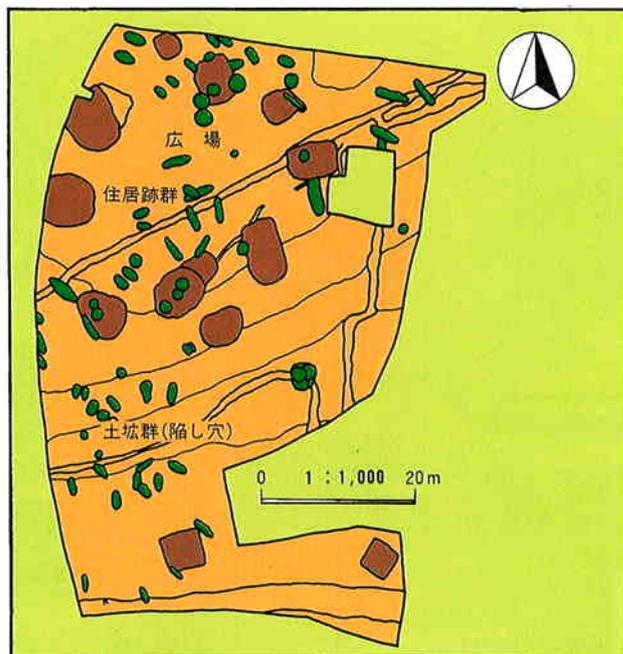
大館町遺跡

西海淵遺跡も縄文中期を主体とした遺跡で、同心円状の遺構配置をみせています。中央に広場、それを取り囲むように墓塚群が存在し、その外側にはおびただしい数の土塚群・小ピット群、さらにその外側(外径は約90m)には50棟以上の大木8b式期をはじめとする竪穴住居跡が整然と放射状に並んで検出されました。

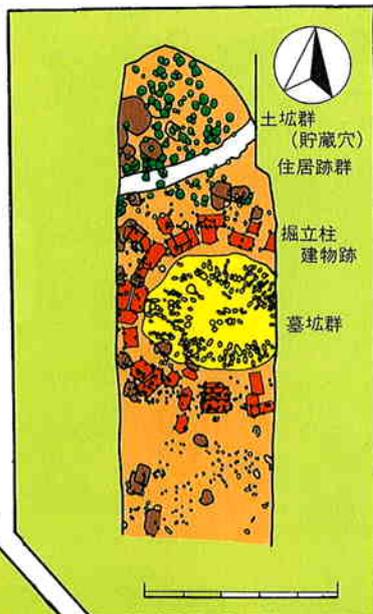
また近年調査された当市の北部に位置する西黒石野遺跡では、縄文前期末～中期初頭にかけての小規模なムラが発見されています。このムラは北上川を西に望む丘陵地の縁辺部に立地するもので、10棟の竪穴住居跡が放射状に直径40mの規模で環状に配置されていました。

これらのように、ひとつの遺跡で共有の広場・墓域・祭場・貯蔵区域・そして住まいの場などが整然と区画されたまま発見された例は非常に珍しく、貴重な遺跡といえます。

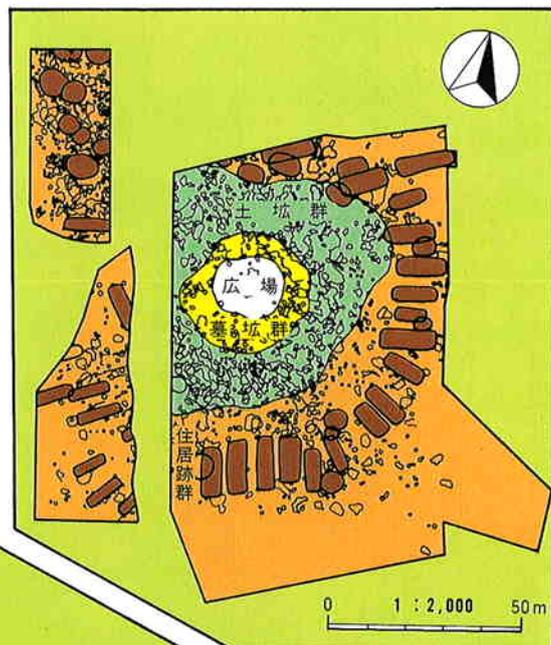
大館町遺跡でも掘立柱建物跡や墓と考えられる土塚が確認されてはいますが、まだ散在する程度の数しか発見されておらず、不明となっている集落の中心部の構造については、遺構のない広場的な空間が存在するものなのか、もしくは土塚墓や掘立柱建物跡などの葬送儀礼の場が存在するのか、今後の調査が期待されます。



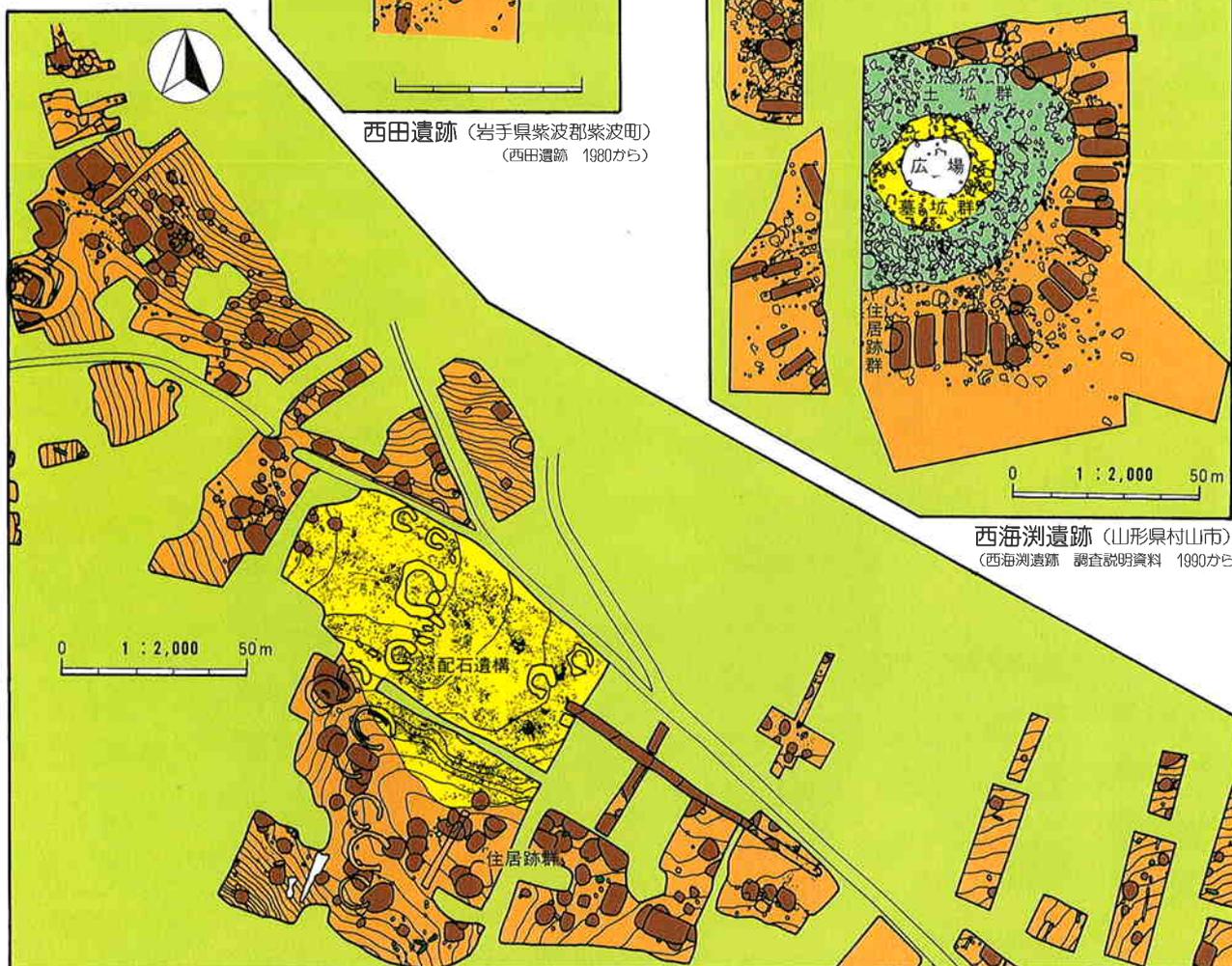
西黒石野遺跡 (岩手県盛岡市)



西田遺跡 (岩手県紫波郡紫波町)
(西田遺跡 1980から)



西海淵遺跡 (山形県村山市)
(西海淵遺跡 調査説明資料 1990から)



御所野遺跡 (岩手県二戸郡一戸町)

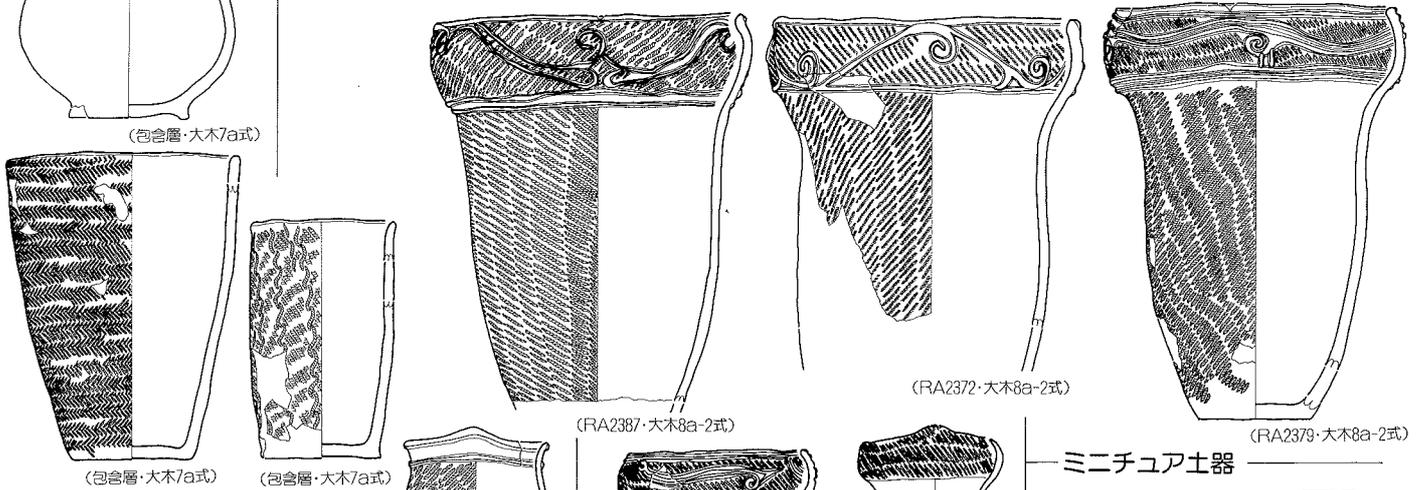
(御所野遺跡 発掘調査概報 1991から)

40次調査の出土土器

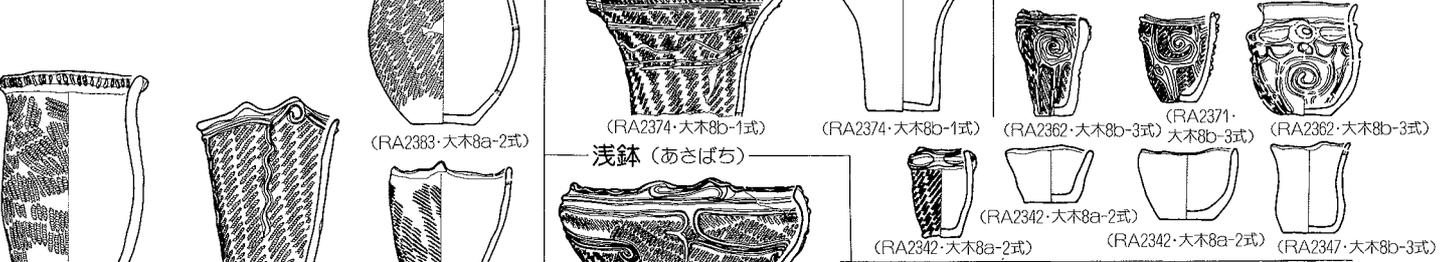
深鉢 (ふかばち)



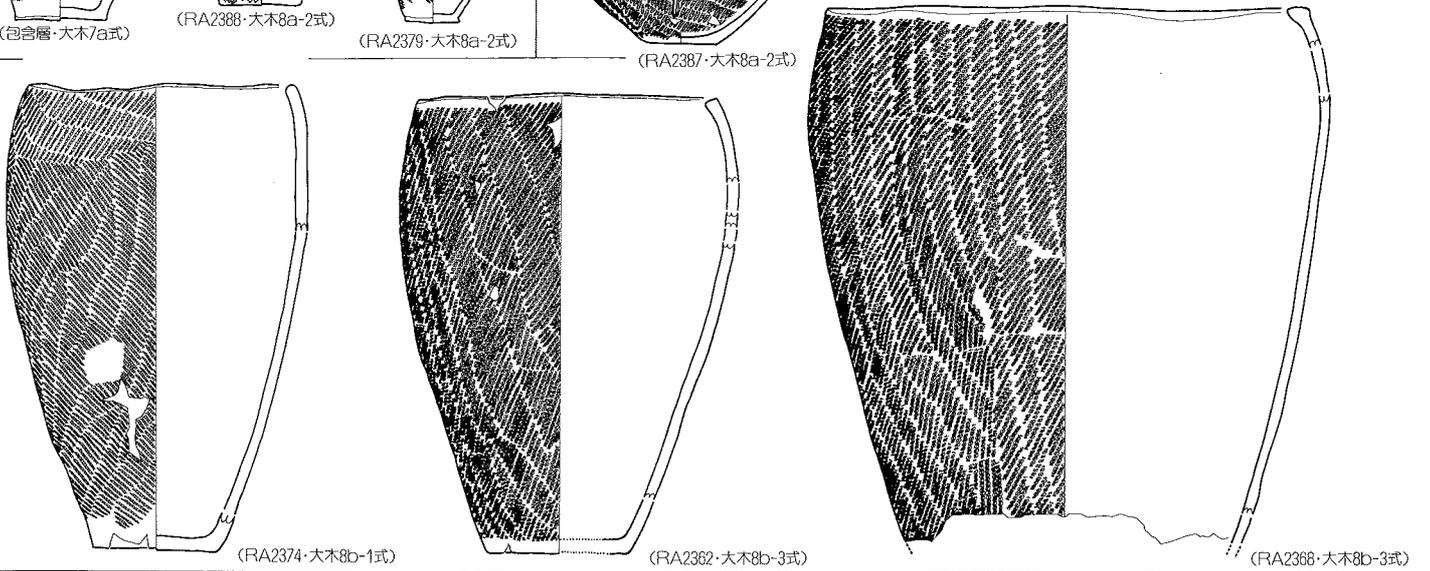
キャリパー形深鉢



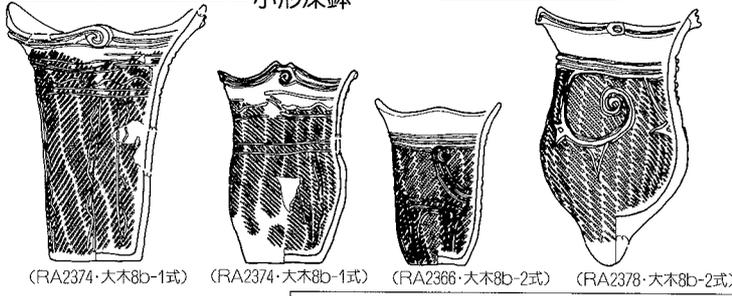
ミニチュア土器



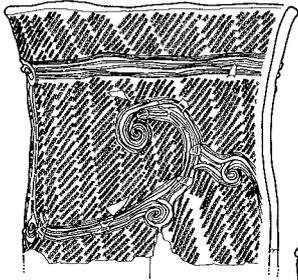
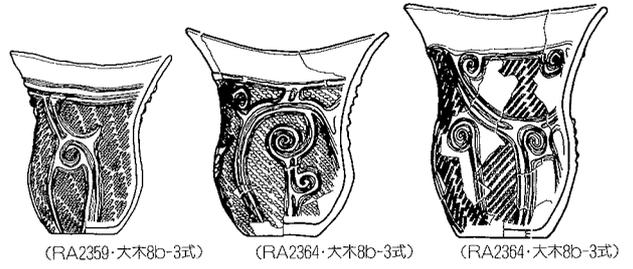
浅鉢 (あさばち)



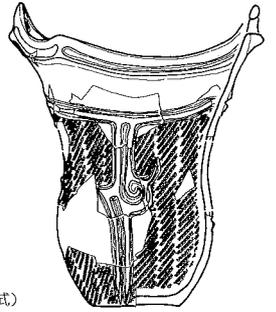
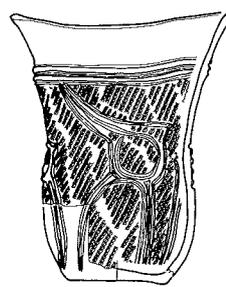
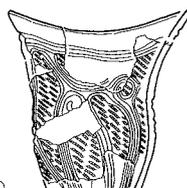
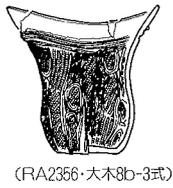
小形深鉢



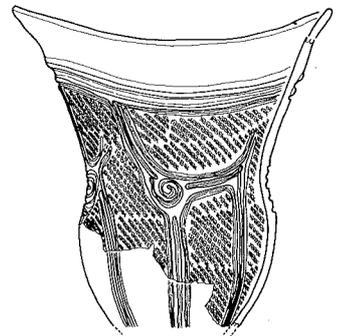
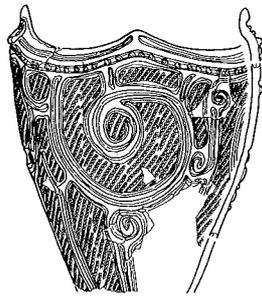
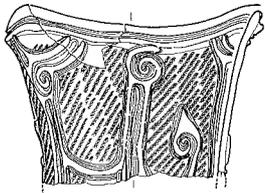
小形深鉢



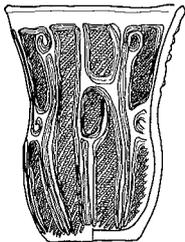
深鉢



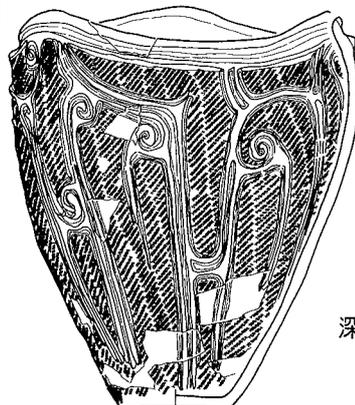
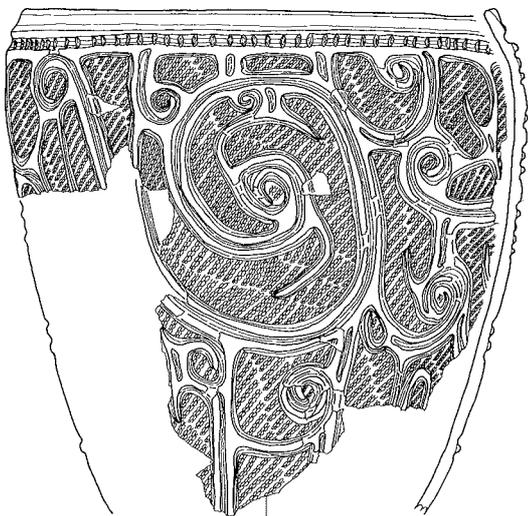
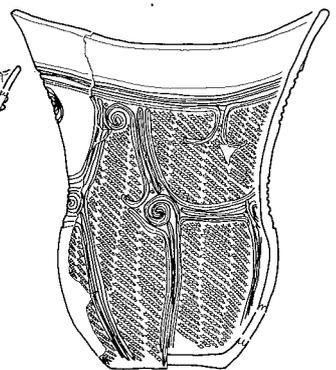
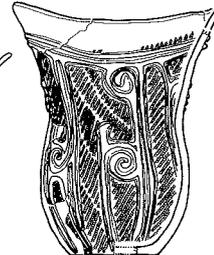
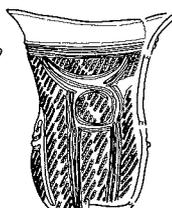
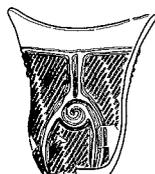
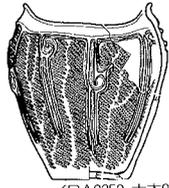
RA2371 竪穴住居跡、出土の土器 (大木8b-3式期)



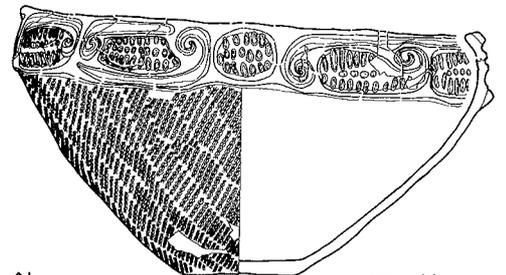
小形深鉢



深鉢



深鉢



深鉢

0 1 : 6 20cm

10. 縄文人の信仰

縄文時代を代表する信仰にかかわる遺物として土偶を挙げることができます。本遺跡の南部～南西部にかけての緩斜面に形成された遺物包含層からは住居区域に比べてやや多く土偶が発見されています。

一般的に土偶は何らかの儀式に使用されたものと考えられ、乳房や妊娠状態など女性を表現したものが多く、またほとんどのものは破損した状態で発見されています。

そのほか、土製品としては動物形土製品、土器片を丸く再加工した土製円盤、ペンダント形の装身具、スタンプ状・ボタン状・柄杓状・斧状などを呈したいろいろな形の土製品も出土しています。

また一般の土器に比べ、小さく作られたミニチュア土器もいくつか出土しています。RA2342からは中に赤色顔料として使用されたベンガラ（酸化第二鉄）の入ったミニチュア土器と、土器を作る際に粘土に混ぜる混和材として使用されたとされる石英質の粉が入ったミニチュア土器が検出されています。なお住居跡出土の土器には、隆線のみならず朱塗りしたものや内外面に朱塗りを施した特別な土器も数点出土しています。

石製品では、耳たぶに穴をあけて通したイヤリングと考えられる塊状耳飾^{けっじょう}、ヒスイ製の未製品、軽石製の浮子^{うき}などが出土しています。



いろいろな石製品・土製品



ミニチュア土器



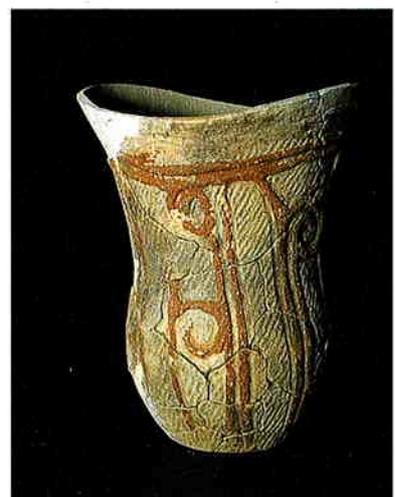
動物形土製品



ベンガラの入ったミニチュア土器



いろいろな土偶



朱塗りの土器

第40次調査検出遺構一覧

遺構番号	平面形	規模	主軸方向	主柱穴 (配置・本数)	炉の形態(数)	床の状態 (周溝・貼床等)	時期	特記事項
RA2313	長方形	4.7m以上×3.9m	W21°N	五角形5本柱?	?	周溝全周	大木8a-2式?	RA2322に切られる
RA2322	?	?	?	?	?	周溝	大木8b-1式	RA2313を切る
RA2334	楕円形?	3.3m×2.5m以上	N36°W	?	石囲炉?(1)	—	大木8b-3式	RA2336を切る
RA2335	?	?	?	?	円形石囲炉(1)	埋設土器(1)	大木8b-3式?	—
RA2336	楕円形?	5.0m×3.7m以上	E3°N	並列6本柱?	地床炉(2)	一部周溝	大木8b-2式?	RA2334に切られる
RA2337	円形?	?	?	?	石囲炉(1)	周溝全周	大木8b-2式?	RA2385に切られる
RA2338	?	2.5m以上×3.3m以上	?	?	石囲炉(1)	周溝全周	大木8b-2式?	RA2336に切られる
RA2339	円形	3.1m×3.3m	E12°N	亀甲6本柱?	埋設炉(1)	—	大木8b-2式	RA2336に切られる
RA2340	円形?	直径2.6m以上	?	?	円形石囲炉(1)	一部周溝	大木8b-1式?	—
RA2341	?	直径4.2m以上	?	?	?	—	大木8b-1式?	—
RA2342	隅丸方形	4.0m×4.3m	E20°S	長方形4本柱	埋設炉(1)	一部周溝	大木8a-2式	RA2316を切る
RA2343	不整楕円形?	3.5m×3.0m以上	?	?	方形石囲炉(1)	—	大木8a-2式?	RA2342に切られる
RA2344	楕円形?	4.3m×3.4m以上	N20°E	亀甲6~8本柱?	石囲炉(1)	—	大木8b-2式	RA2345に切られる
RA2345	円形?	直径2.3m	N14°E	円形6本柱以上?	?	—	大木8b-2式	RA2344を切る
RA2346	?	?	?	?	地床炉(1)	—	?	RA2344・2348に切られる
RA2347	楕円形?	3.4m以上×3.0m以上	?	?	?	一部周溝	大木8b-3式	RA2348を切る
RA2348	楕円形?	2.6m×3.6m以上	?	?	地床炉(1)	一部周溝	大木8b-1式?	RA2349を切る
RA2349	円形	直径2.35m	N9°E	方形4本柱?	?	—	大木8b-1式?	RA2348に切られる
RA2350	?	?	?	?	円形石囲炉(1)	(壁削平)	?	—
RA2351	楕円形?	4.3m以上×3.4m以上	N17°E	長方形6本柱?	地床炉(1)	埋設土器(1)	大木8b-1式?	RA2344に切られる
RA2352	不整楕円形	3.2m以上×3.5m以上	?	?	石囲炉(1)	—	大木8b-1式	—
RA2353	?	?	?	?	?	—	大木8b-1式	RA2374に切られる
RA2354	?	?	?	?	地床炉(1)	(壁・床面削平)	?	RA2342を切る
RA2355	円形	直径3.9~4.3m	E39°N	亀甲6本柱	地床炉(1)	—	大木8b-3式	RA2356を切る
RA2356	楕円形?	5.5m×3.5m以上	W38°N	亀甲6本柱?	地床炉(1)	—	大木8b-3式	RA2356に切れるRB2302を切る
RA2357	円形?	直径3.0m以上	?	?	円形石囲炉(1)、地床炉(1)	—	(大木8b式?)	RA2355・2358に切られる
RA2358	楕円形	2.9m×4.5m	N7°W	?	石囲炉(1)	—	大木8b-3式?	RA2362に切られる
RA2359	不整楕円形	3.4m×5.6m?	N-W?	?	地床炉(1)	?	大木8b-3式	—
RA2360	不整楕円形?	4.0m以上×3.9m以上	?	?	方形石囲炉(1)	—	?	—
RA2361	円形	直径4.6m	E2°N	五角形5本柱?	方形石囲炉(1)	一部周溝	大木8b-3式	建替え(2期)あり
RA2362	円形	直径5.3~5.5m	E14°N	五角形7本柱?	方形石囲炉(1)	壁埋設土器一部周溝	大木8b-3式	RA2361に切られる
RA2363	?	?	?	?	?	—	(大木8b式?)	RA2362・2361に切られる
RA2364	円形	直径2.75~3.0m	E8°S	方形4本柱?	地床炉(1)	周溝全周	大木8b-3式	RA2369・RB2302を切る
RA2365	楕円形?	7.3m×2.6m以上	?	?	?	周溝全周	大木8b-3式	RA2368を切る
RA2366	?	?	N-E?	?	石囲炉(1)	(壁・床面削平)	大木8b-2式	—
RA2367	?	?	N-E?	?	方形石囲炉(1)	(壁・床面削平)	?	—
RA2368	楕円形	5.9m×5.2m	W26°N	亀甲6本柱	方形石囲炉(1)	壁埋設土器一部周溝	大木8b-3式	RA2365に切られる
RA2369	?	?	?	?	?	—	大木8a-2式?	RA2365に切られる
RA2370	?	?	?	?	?	?	?	RA2369に切られる
RA2371	楕円形	7.65m×6.4m以上	N30°E	楕円交互8本柱?	石囲炉(1)、地床炉(1)	一部周溝	大木8b-3式	RA2372・2373を切る
RA2372	隅丸長方形	5.5m×3.5m	N14°E	長方形6本柱	地床炉(1)	—	大木8a-2式	RA2371に切られる
RA2373	円~楕円形?	?	?	?	?	?	?	RA2371に切られる
RA2374	円形	直径6.0~6.2m	N6°E	楕円交互8本柱?	円形石囲炉(1)、地床炉(1)	周溝ほぼ全周	大木8b-1式	建替え(2期)あり
RA2375	?	?	N-E?	?	円形石囲炉(1)	(壁削平)	?	—
RA2376	?	?	N-E?	?	方形石囲炉(1)	(壁・床面削平)	大木8b-3式?	—
RA2377	楕円形	6.5m以上×6.0m以上	N27°E	長方形6本柱?	埋設炉(1)、地床炉(1)	—	大木8b-2式	RA2378に切られる
RA2378	楕円形	4.0m以上×1.4m以上	N24°E?	?	?	—	大木8b-2式	RA2380を切る
RA2379	円形	直径4.3~4.7m	E14°S	亀甲6本柱	埋設炉(1)	—	大木8a-2式	RA2374に切られる
RA2380	隅丸長方形	7.5m×3.2m以上	N29°E	長方形6本柱?	?	周溝全周	大木8a-2式	RA2378に切られる
RA2381	隅丸長方形	6.5m×4.3m	N29°E	?	円形石囲炉(1)	周溝ほぼ全周	大木8a-1式?	RA2380に切られる
RA2382	?	?	E-N?	?	方形石囲炉(1)	(壁・床面削平)	大木8a-2式?	—
RA2383	円~楕円形?	2.6m以上×3.0m以上	?	?	?	周溝(2期目)	大木8a-2式?	建替え(2期)あり
RA2384	?	?	N-E?	?	石囲炉(1)	(壁・床面削平)	(大木8b式?)	RA2386を切る
RA2385	円形?	直径3.5m?	N13°E	?	地床炉(1)	(壁・床面削平)	?	—
RA2386	?	直径5.3m以上	N-E?	?	?	?	(大木8b式?)	RA2384に切られる
RA2387	楕円形	3.9m以上×3.85m	W40°N	亀甲6本柱?	埋設炉(1)、地床炉(1)	壁埋設土器一部周溝	大木8a-2式	RA2388に切られる
RA2388	楕円形	4.8m以上×3.5m以上	W18°N	楕円交互6本柱?	土器埋設石囲炉(1)	一部周溝	大木8a-2式	RA2387を切る
RE2302	隅丸長方形	3.75m×2.0m	E8°N	小柱穴1口	—	舟底状	(大木7b式?)	RA2387・2388に切られる

遺構番号	平面形	規模	主軸方向	断面	—	底の状態	時期	特記事項
RB2301	長方形	2間×1間(7.3m×4.2m)	W18°N	柱痕跡あり	—	—	大木8a式?	RA2362に切られる
RB2302	長方形	2間×1間(4.7m×2.3m)	W20°N	柱痕跡あり	—	—	大木8a式?	—

遺構番号	平面形	規模	主軸方向	断面形状	—	底の状態	時期	特記事項
RD2314	楕円形	0.95m×1.1m	—	ピーカー形	—	—	?	RA2339に切られる
RD2315	長方形	上端0.55×0.75m、下端1.25×1.3m	—	プラスチック	—	—	?	—
RD2316	円形	上端1.5m、下端1.45m	—	プラスチック	—	—	?	RA2342に切られる
RD2317	楕円形?	1.4m×0.9m以上	—	ピーカー形?	—	—	大木8a-1式?	RA2344・2345に切られる
RD2318	楕円形	上端0.95~1.15m、下端0.9~1.1m	—	プラスチック	—	—	?	RD2320を切る
RD2319	円形	上端0.85~0.9m、下端0.85~1.0m	—	プラスチック	—	—	?	RD2320を切る
RD2320	円形	上端1.25m、下端1.05~1.45m	—	プラスチック	—	—	?	RD2318・2319に切られる
RD2321	円形	直径0.75~0.85m	—	ピーカー形	—	—	?	RA2349に切られる
RD2322	円形	上端1.0~1.15m、下端1.35~1.55m	—	プラスチック	—	—	?	RA2348・2349に切られる
RD2323	円形	上端0.9~1.0m、下端1.3~1.5m	—	プラスチック	—	底面に焼土塊	?	—
RD2324	楕円形	上端0.85×0.65m	—	ピーカー形	—	—	?	RA2361に切られる
RD2325	隅丸長方形	上端1.9×1.0m	N30°W	—	—	—	?	—
RD2326	楕円形	上端1.1~1.3m、下端1.1~1.4m	—	プラスチック	—	—	?	RA2368に切られる
RD2327	方形	上端1.25×1.1m	N16°W	—	—	—	?	—
RD2328	円形	上端1.85m、下端1.4~1.55m	—	プラスチック	—	—	?	RA2381に切られる
RD2329	長楕円形	上端長さ2.85m、幅0.15~0.2m	N32°E	—	—	—	?	Tピット



大館遺跡群
大館町遺跡
平成3年度発掘調査概要

発行年月日 1992. 3.31
発行 盛岡市教育委員会
〒020
岩手県盛岡市内丸
12-2
☎(0196)51-4111
印刷 川口印刷工業(株)